

「人事で暴く岸田首相のホンネ」公約が財務省の
思い通りになるワケ

高橋：その兆候もあるのです。

実は、自民党の中の財政の検討会というのがあって、前は財政健全化とか言って、財政再建みたいな検討会だったのですが、それが岸田さんの下に今でもあるのです。

それを相変わらず続けるわけです。

実は、少し変わっているのですが、政調会長である高市さんの下にも財政の検討会があるのです。これは積極財政なのです。

何か今、自民党で珍しく、総裁の下の財政検討会というのと、政調会長の下の財政検討会と2個あって、「2個あってどうするんですか？」という状態で、両方あるのです。

このどちらを取るかということですが、最後は自民党が参議院選挙の公約をつくるときに、必ず一本化しなければいけないですね。

藤井：もちろんそうですね。

高橋：でも、一本化しても、おそらく岸田さんのことですから、岸田色が強くなるでしょう。岸田色が強くなかったら、自分が総裁の意味がないでしょう。

高市さんの色が濃いのだったら、総裁選で勝ったのは自分だと思っていますから、それは高市さんの色は濃くしないと思います。

そうすると、参議院選挙も洪ちんの財政の方向になるのではないのでしょうか。

その岸田さんの下でやっているのは、事務局は全

部財務省なのです。

高市さんの下にも財務省の人はいて、両方やっていますが、これは出てくる答えを見ると、結構財務省色が強い話が出てきて、それがそのまま参議院選挙の公約になりそうだなと思います。

少し目先を見て、矢野さんをそのままにしておいたこと、あとは参議院選挙の公約として今のメンツを見ても、なかなか積極財政に行きそうにありません。

あと、日銀人事、審議会委員なんかの人事を見ても、なかなか積極金融緩和の話にはなりそうもないというふうには読めてしまいますよね。

こういうふうに読みたくはないですけども、人事とかそういうのを見ていて、私は外形的に判断するというポリシーなので、そうすると読み方としては、ここで急に君子豹変（ひょうへん）するというのは、可能性は少なくなりますよ。もし豹変（ひょうへん）するくらいだったら、もっと前に変わっているでしょう。

藤井：去年の自民党の総裁選挙の時は、イメージ操作的には「増税論者である」というふうなものを封印してくるのかなと、そして、あまりの親中派、親中外交みたいなのも出さないでくるのかなと思ったら、要するに、もう初めから何も変わっていないのですね。特に、選挙に勝ってみたら、その辺りがぞろぞろ出てきてしまいましたね。

高橋：それは、林さんを外務大臣にした段階で分かるでしょう。この手の話は全部、私は人事を見ていると読めると思うのです。

だから、林さんを外務大臣にすること自体そうでしょうし、大体、親子そろって日中友好議

連で、友好議連というのはどういうのかというと、あれは本当の友好ではないのです。

あれは、中国に対するビジネスとかそういうときに窓口になる場所ですから、これはもう完全に利権がつながっているのです。

中国はああいう国ですから、例えば進出するときに、普通の民主主義政府のように普通に全部受け付けてくれるということはないのです。

そうすると、話をつなげてくれる人が必要になってきて、それが政府の方ではできなくて、日中友好議連にやらせているわけです。

ですから、日中友好議連というのは対中ビジネスの窓口なのです。

窓口で、そういうことで利権がズブズブになっているから、アメリカなどだって、「日中友好議連は危ないぞ」とはっきり言うわけです。

そんなものはすぐに分かりますよね。

その歴代の会長で、親子そろって会長で、岸田さん自体だって、広島県で友好議連の何かをやっていますし、ほかの鈴木財務大臣だったか、この人は岩手の何か友好議連をやっていますよね。友好議連というのは全国組織ではなく、各県ごとにありますから、結構そういうのが多いのです。

そういうふうな政権なのです。これも人事で分かってしまうのです。

私なんかは、言っている話などはあまり見なくて、こういうふうなバックグラウンドのところから推測するのです。

そうすると、人事で分かるでしょう。

藤井：今の財務大臣というのは、どういう人なの

ですか？

高橋：鈴木善幸さんの息子さんで、あれは麻生さんの首に鈴を付けるのがいなかったの、鈴木善幸さんの息子だし、確か麻生さんと姻戚関係もあるのでしたね。

だからあの方になっているのだけれども、あの方は財政について何も知らないの、役所からそのままです。

藤井：そのままなのですね。

高橋：一番楽なのです。読み間違いをしないでそのままというのが、一番楽なのです。

藤井：そういうことですね。

高橋：「読み間違えないか、ドキドキ」というのが大変なのですけれども、読み間違えないできちんとする人が、一番楽なのです。

藤井：そういう人を連れてきたということですね。

高橋：そうです。ですから、そういうのを据えているし、矢野次官はやりたい放題で、日銀人事の方も危ないし、友好議連の人ですから、もうそのままが出ているのではないのでしょうか。

藤井：もう、そのまんまですね。